

おわりに

広島県では、県版のレッドデータブックがまもなくできあがる予定であるが、県内の水生・湿生植物についての調査・研究はいまだに十分とは言い難い。水生・湿生植物の保護・保全対策のためにも、各種の分布、生態、生育環境についての、さらに詳しい調査が必要である。

また、植物標本を収蔵する公的な施設がないことは、水生・湿生植物に限らず、広島県の植物相全般の研究における深刻な問題である。貴重な標本の散逸を防ぐためにも、標本庫を完備した研究施設が早急に必要である。

引用文献

- 広島県(監修). 1995a. 広島県の自然と野生生物. 168 pp. 中国新聞社.
 広島県. 1995b. 広島県緊急に保護を要する野生生物の種の選定調査結果の概要.
 関 太郎. 1995. 広島県における野生生物の保護. 広大

環境 24: 9-13.

- Shimoda, M. 1993. Effect of urbanization on pond vegetation in the Saijo Basin, Hiroshima Prefecture, Japan. *Hikobia* 11: 305-312.
 下田路子. 1995. 広島県西条盆地のため池における水草と環境の変化. *群落研究* 11: 23-40.
 下田路子・橋本卓三. 1993. ミズニラ池(仮称)の植生と水質の変化. *植物地理・分類研究* 41: 103-106.
 高木哲雄. 1933. 広島県に於ける高等植物の分布に就て(予報). *崇徳* 15: 1-11.
 我が国における保護上重要な植物種及び群落に関する研究委員会種分科会(編). 1989. 我が国における保護上重要な植物種の現状. 320 pp. 日本自然保護協会・世界自然保護基金日本委員会, 東京.

山口県平生町で

葉状体の裏面緑色のウキクサ群落
南 敦

1995年8月23日, 山口県平生町平生村, 平生町立平生図書館の西となりの小川〔5万分の1地形図: 柳井一左上〕で葉状体の裏が緑色のウキクサ群落が見つかった。この小川の幅は約10m, 川底の両側にはアシやガマが多く繁り, コウキクサが多数浮いていたので, ついでにウキクサをとってみると葉状体の裏は緑色であった。陽の強く当たる所, 少し日陰の所などから約200個体以上採集したがほとんど緑色で, ごくわずか, 数個, 根のつけ根当たりがうす紫のものがあつた。季節の影響のことも考えて勤務校の柳井市古開作, 柳井高校側の水路や学校や自宅の水槽のウキクサを見たが, いずれのウキクサの葉状体の裏も紅紫色であった。ところで角野康郎『日本水草図鑑』(1994)では「葉状体の裏面は多かれ少なかれ赤紫色であるのがふつうだが, 場所や時期によっては緑色の場合もある」と記してある。

平生町で採集した葉状体の裏緑色のウキクサは自宅で栽培している。また, 証拠標本は山口県立山口博物館に納入の予定である。

山口県瀬戸内海の屋代島に

ミジンコウキクサ他
南 敦

ミジンコウキクサは山口県では周南部の岩国から防府まで採集されている。特に東部の岩国から柳井の間では非常に多産している。ハス田が多いことも一因のようである。今回見つかったのは屋代島で, 橘町油田から東和町船越に通じる道路端の東側, 約80m×約80mの池。ヒシが8割, 水中にマツモ, イトモ, エビモ, ホザキノフサモが多かった。水面にミジンコウキクサ, アカウキクサ, コウキクサ, アオウキクサなどが混じっていたが, ミジンコウキクサが一番多い。大きな草ではフトイ, ハンゲショウ, ショウブ, ガマなどがあつた。

東和町内入の天然記念物バクチノキ近くの約80m×約80mの池ではコウキクサが特に多く, ヒメウキクサ, アオウキクサ, ウキクサなどが混じっていたが, ミジンコウキクサは見られなかった。東和町森の池, 約80m×約80mではヒシが3割, 水中ではオオトリゲモが多く, ホザキノフサモ, エビモ, イトモ, センニンモ, ホッソモ, マツモ, ウキクサ類(ミジンコウキクサはなかった)などであつた。シャジクモ類も採集されたが未同定で栽培している。大形水草はカンガレイ, ナギ, ガマ, コガマなどであつた。